

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078000090		
法人名	有限会社 シュヴァン		
事業所名	グループホーム いちょうの杜 三漕		
所在地 (電話番号)	久留米市三漕町玉満400-5 (電話) 0942-65-0275		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	平成19年12月6日

【情報提供票より】(19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>		新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,200 円/日	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> /無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.8 歳	最低	55 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	齋藤医院、松岡病院、矢野医院、みねまつ歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中に位置している「いちょうの杜 三漕」は、明るく開放的であり、玄関先のイスに腰掛けタバコを一服する人、晩酌を楽しむ人、台所で食事の後片付けをする人、毎日の散歩を楽しむ人など、家庭的な環境の中で、その人らしい暮らしを利用者は送れている。1人ひとりのあるがままを「受容」し、「傾聴」と「共感」の理念を大切にしながら、スタッフと入居者は穏やかに日々を過ごしている。ご家族から相談があれば、ターミナルケアまで取り組んでおり、より積極的な介護が行われている。管理者をはじめスタッフ全員が介護に対する理念と目標を掲げ、日々より良い介護に向けて努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で明確になった入浴などへの対応は、速やかに改善されており、その他の改善項目についても取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者をはじめ、スタッフ全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) グループホームを地域の方々がどのように思っておられるのか、また、理解していただくためのアンケートやパンフレットについて運営推進会議で検討し、住民の方へのアンケートを行うなど、更に地域との密接な関係を築く取り組みがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族からの意見や相談はしっかり受け止め、希望ができるだけ叶うよう取り組んでいる。また、近況報告や行事予定などを載せた新聞を毎月家族へ送付している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日課の散歩で近隣の人たちと顔なじみになり、声かけをしていただいたり、お花を貰ったり、地域の運動会に参加したりするなど地元の人々と交流している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「受容」「傾聴」「共感」で、玄関の壁に大きな額に入れ掲げられている。地域の中でその人らしく暮らしていくためのあるがままを「受容」し、1人ひとりをよく理解するための「傾聴」と「共感」をスタッフ全員が常に大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや、日々のスタッフの言動の中で理念を共有し、実践している。また、スタッフ一人ひとりが理念に基づき目標を掲げ、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は孤立することなく、日常的に散歩などで近隣の方々と気軽に声を掛け合い、お花をいただいたり、季節の野菜が届けられたり、運動会などの地域の行事に参加したり交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で、前回の評価で指摘されたところから改善に取り組むなど素早い対応がなされている。また、自己評価も全員で行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、地域包括支援センター職員など13名のメンバーで行われている。グループホームの介護力を地域に活かすため、パンフレットを作り、介護者教室を開催している。		地域住民の方へのアンケート回収方法の検討や、また集計結果を活用することなど、地域と密接な関係を築いていくことができるよう、運営推進会議で話し合い、具体化していくことに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	久留米市役所の長寿介護課と密に連絡を取り合い、市町村と共にサービスの向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	ミーティングで勉強会をしている。成年後見制度の利用者が入居している関係で、全員理解している。説明の際は、パンフレットを見せながら行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回「いちょうの杜三潴新聞」を発行し、利用者の近況報告や行事予定などを家族に送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情は、いつでも意見箱に投函できる。家族からの相談はしっかり受け止め、希望を取り入れている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が損なわれないよう異動、離職については配慮をしている。離職の際は、家族にも説明し管理者や副主任が更にフォローする体制で行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集では、男女や年齢の区別なく、すべて面談し、やる気のある人を採用している。職員全員がやる気を持って働けるよう、1人ひとりとの面談により、各職員の思いや目標などを確認し、能力に合わせて生き生きと勤務ができるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を尊重することを大切にして、言葉がけや態度に注意するなど、現場の実践の中で教育している。人権教育などの研修も全員参加の方針である。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	国家資格を取得するように、職員1人ひとりの向上心に働きかけている。理念や介護の取り組みの具体的目標を立て、達成度の実績評価を前期と後期に行い、職場内研修や外部研修も積極的に参加を促している。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	5つの法人事業所の看護師との連携があり、法人以外のグループホームとも交流している。NPO介護福祉サービス事業者協議会の研修などにも参加している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から利用者の生活歴や嗜好品、その人が大切にしていることは何かなど、十分に情報を収集し、何よりも家族がどのような介護をしてきたかを念頭に置き、家族と相談しながら体験入所などを行い、徐々に馴染みの関係を作っていくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の個性やその人の得意なこと(裁縫など)を引き出すように支援しているが、反対に、スタッフが利用者の言葉に励まされ、力づけられることもあり、利用者支えあう日々の関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの話を十分に聞き、情報の収集を行っている。本人が常日頃どのように望まれていたかの把握に努め、何気ないしぐさや行動を理解し、本人の思いを受け止めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の日々の変化や生活課題に対して、家族と話し合い、具体的な介護計画が作成されている。短期目標は1人ひとりの取り組みが具体的で分かりやすい計画である。		長期目標についても、利用者や家族の励みになると思われるので、明確に文章化することに期待したい。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度見直しを行うが、身体レベルの低下や逆にレベルアップした時など、メンタル部分も考慮して見直している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設から3年が経過したこともあり、より地域とのつながりを大切にし、ショートステイやデイサービスなど、これからの取り組みとしての課題を十分認識している。		地域とのかかわりを大切にし、地域にグループホームの機能を活かした提供ができるよう、取り組むことが望まれる。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の病状の急変に備え協力病院と連携しており、訪問歯科の往診も行われている。かかりつけ医の受診介助も、家族ができないときはスタッフが行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りに関する指針等は整備されていないが、看取りまでを3事例経験している。実践の中で医師や家族とよく話し合い、全員で取り組むことで対応している。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いには注意している。緊急時などに警察署の素早い対応や協力が得られるよう、家族の了承を得て写真などを保管している。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのできることを引き出し、活動の場を提供している。台所の片づけができる人、裁縫ができる人、気心の会う人同士ゆっくり時を過ごすなど一人ひとりに配慮している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は管理栄養士が立て、それに沿って担当者が昼食と夕食の調理をしている。スタッフも利用者も同じテーブルで見守りながらの食事をしている。希望などを取って時々外食なども楽しんでいる。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週3回の入浴をベースに、シャワー浴は安眠効果が薄いので浴槽浴にして、一人ひとりの希望によって対応するなど支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気晴らしは、人によって散歩であったり、タバコであったり、お酒であったりと様々であるが、全て「受容」している。役割は強制ではなく、その人にできることを見出し行われている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1人ひとりの体力と希望に応じて外出の介助を行っている。散歩では、地域の方々や馴染みになって、挨拶をするなど声をかけ合っている。1人で出て行く人には、後ろから安全を見守るなどして対応している。寝たきりの人も、できるだけ起すことを心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放的で、出入りの様子は事務所から十分目が届くようになっている。中には毎日荷物をまとめて帰り支度をする人もいるが、職員が巧みにコミュニケーションしながらうまく誘導している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による避難訓練を行ったが、職員のみで行われ、実際に全員の利用者が避難しなかったという反省点も見られる。重度の方々を安全に誘導するために、日頃から地域の方々の協力体制を確保する事が重要である。		避難訓練は回数を重ねるごとに、時間の短縮が計れるので、地域の方々の協力をいただき、利用者が安全に全員避難できるように、訓練を継続することが望まれる。また、避難訓練マニュアルなどの整備も望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態に応じて、食事量や、水分摂取量も記録しており、栄養バランスや脱水症予防に留意した支援が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の壁一面に利用者の方々の貼り絵の大作が貼ってあり来客を迎えている。広々とした空間のダイニングと畳の間のリビングである。テレビもみんなで、ゆっくりソファーに座ってよく見えるようにしており、利用者にとって居心地の良い生活空間となっている。手すりを使って安全に移動ができるように、またトイレなども立ち上がりやすく配慮がされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は、1人ひとりの大切なものが持ち込まれ、中には、仏壇も持ち込まれている。自分の部屋を間違えないようにそれぞれに工夫している。		